

令和5年度 二軍戦細則

1. 出場資格

- (1) 基本的には、当連盟規約、リーグ戦規約の出場資格に従うものとする。
- (2) 当連盟に本年度登録されている者で、登録年度数及び在籍年度数4年以内ならば出場できる。但し、医学部系・歯学部系・薬学部系大学または同一大学の医学・歯学部・薬学部においては、登録年度数及び在籍年度数6年以内、短期大学においては2年以内とする。
- (3) 文科系部員に関しては以下の制限の元、出場を認める。
 - ① 本年度の個人戦または新人戦に出場していること（defは除く）。
 - ② 文系部員の単複の重複は認めない。
- (4) 本年度行われた個人戦、新人戦の本戦またはリーグ戦に出場した者は、今大会において出場資格を有さない。

しかし、本年度行われたリーグ戦において、シングルスのみに出場した者はダブルスのみに、ダブルスのみに出場した者はシングルスのみそれぞれ出場可能とする。また、本年度行われた個人戦においても、シングルスのみ本戦に出場した者はダブルスのみに、ダブルスのみ本戦に出場した者はシングルスのみそれぞれ出場可能とする。
- (5) ダブルスのペアを解消しても本年度行なわれた個人戦本戦またはリーグ戦にダブルスで出場選手は、二軍戦のダブルスの出場資格は有さないものとする。

2. 試合形式

3セットマッチ（各セット6－6タイブレーク）

男子：複2ポイント 単3ポイント

女子：複2ポイント 単3ポイント

3. 使用コート

- (1) 原則としてコート選択権のある大学に一任する。
- (2) コート選択権はA,Bチームに関係なく、本年度のリーグ戦の結果、順位（別紙参照）が高い大学がもつものとする。
- (3) 対戦は、同一サーフェスを使用して行う。但し、天候や試合進行状況に応じて、コートレフリーと両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。
- (4) 同一大学で2チーム以上が参加し、両チームとも同じ会場で試合をする場合も同日開催を認める。

4. 使用ボール

- (1) ボールは「YONEX ツアープラチナム」を用いる。
- (2) ボールチェンジはファイナルチェンジとする。
- (3) 試合中のパンク・ロストについては、ファーストセットの2ゲーム目までは（ウォームアップも含む）、ニューボールとし、それ以後はセットボールと交換する。但し、セットボールがない場合はニューボールと交換して良い。ボール交換は必ず2球とも行う。
- (4) 日没・水没となった場合には、選手が1個ずつ保管する。但し、両者の合意によりニューボールと取り替えてもよい。

5. 試合

(1) 試合開始時刻

男女とも、複を午前9時00分とし、試合コートが遠隔地にある等の特別な場合限り、午前9時30分または10時00分を試合開始時刻とすることを認める。

(2) オーダー交換

オーダー交換は、男女とも複、単別々に行うものとし、複は試合開始時刻10分前に行い、単は複の試合終了後、即座に行う（オーダーを書き換える等の簡単な時間以外は、認めない）。出場選手は、オーダー交換の際には、「10. 服装」の項目に従ったウェアを着用の上集合・整列する。オーダー交換時に選手が欠けていた場合、その選手はDefとなる。

(3) 試合開始・延期の判断は、コートレフリーと両校の主将・主務がオーダー交換の10分前に集まり決定する。

(4) 試合の順序

男子 複 第2位から順に第1位

単 第3位から順に第1位

女子 複 第2位から順に第1位

単 第3位から順に第1位

注) 試合の進行状況によりコートレフリーと両校の主将・主務の話し合いの上、試合の順序を変更することを認める。

(5) 試合開始前のコート内でのウォームアップは10分以内とする。また、雨天により中断し当日再開する場合、10分以内のウォームアップを認める。

(6) 日没などで中断し日を改めて再開する場合、10分以内のウォームアップを認める。

(7) 選手は、各ポイント終了後25秒以内、コートチェンジの際は各ゲーム終了後90秒以内、セットブレイクの際は120秒以内にプレーを開始する。この事に対するペナルティーは「17. ペナルティの基準」の項に準ずる。

注) 時計は全て主審が計るものとする。主審はコートチェンジとセットブレイクの際は

残り 30 秒になったら「タイム」、残り 15 秒を過ぎてもベンチにいたら「15 セカンズ」とアナウンスする。

- (8) 単のオーダー交換が 12 時を過ぎた場合、昼食時間を認めない。
- (9) 対戦が終了しない場合は、コートレフリー及び両校の主将・主務の話し合いにより日時を決定する。サスペンドの内容（サービスサイド、ポイント等）はコートレフリーが記録する。
- (10) 勝敗の決定した試合は、天候、コート不良、日没などによる延期は無いものとする。
- (11) 試合中にコンタクトを落とした時は、探してつける時間を 3 分間認め、本人・ベンチコーチ・質疑権所有者のみが探せるものとする。
- (12) 2 チーム出す大学は、両チームにそれぞれ主将・主務・レフリーを選出する。

6. コートレフリー

(1) 両校 1 名ずつコートレフリーを選出する。複のオーダー交換の際、互いに紹介し確認する。

(2) コートレフリーは、本年度理工系登録者に限る。また、選手とコートレフリーを兼ねることはできない。

注) 人数の不足により選出することができない場合のみ、選手とコートレフリーを兼ねることを認める。

また、レフリーが試合に入る際は 1 名代理人（本年度理工系登録者に限る）を出すことができる。その場合、代理人をたてる旨をコートレフリーに伝えなければならない。代理人も出すことができない場合には相手校に相談の上、相手校のレフリーのみで試合を行うなどの対応をとる。

(3) コートレフリーの仕事

- ① 定刻にオーダー交換を行う。
- ② 試合中のトラブルを解消する。（16. 「質疑・抗議」の項を参照）
- ③ 天候・日没の判断を行う。
- ④ オーダー及び対戦結果を主催校に報告する。

オーダー及び試合結果を、試合当日もしくは翌日までに本部宛にメールすること。

本部に何か連絡する際は、両校のコートレフリーとも行う。

(4) コートレフリーは中立の立場にあることを尊重し、互いに協力して仕事を行い規約・細則に明記された判断・判定を行う。

7. 雨天の際の処置

(1) コートレフリーと両校の主将・主務は、オーダー交換の 10 分前（試合開始時刻の 20 分前）にコートに参集してコート状態を判断し試合可能、不可能を決める。

(2) 時間待ちすれば、試合可能と決定した場合は、改めて全試合を消化できる範囲内で試

合開始時刻を決め直す。

- (3) 試合中に雨天となった際、中止の時期の決定は、コートレフリーが行う。
- (4) いずれの対戦も雨天中止となった際には、オーダー交換はしない。

8. 日没の際の処置

- (1) 日没時刻は、当日の朝刊の新聞発表時刻を用いる。
- (2) 日没時刻以前の日没によるサスペンドは認めない。
- (3) 日没時刻以降については、両選手の同意によってのみ試合を続けることを認め、コートレフリーは両選手の意見を聞いてサスペンドの決定を行う。
- (4) 両校の同意があれば、ナイターの使用を認める。
水没・日没試合の再開時刻は、コートレフリーと両校の主将・主務が試合の進行状況から判断して決める。原則として翌日同校で行う。

9. オーダー

- (1) オーダー用紙は、当連盟指定の用紙を使用し、毛筆又はペン書きとする。オーダー用紙はコピー（同倍率のみ）して使用することを認める。
- (2) オーダー順位以外の次の誤り、修正液を使用した場合や、第〇回戦、日付、正式学校名、部印などの書き間違いまたは欠落があった場合は、そのオーダー用紙に書かれたすべてのポイントのコート・サーブ選択権及び1ゲームを失う。但し、オーダー交換後10分以内に相手校から抗議がない場合は、承認されたものとして試合は成立する。これらの処置は、相手校の主将・主務の提訴があった場合に、コートレフリーが行う。
- (3) 「関東理工科リーグ戦規約」に記されている単・複の通常順位に違反した場合は、試合成立後もそのポイントを無効とする。

10. 服装

- (1) 選手の服装は、襟付きと限定はしない。テニスウェアであれば色は問わない。ウォームアップ、トレーナー、スパッツ、帽子、バンダナ、リストバンド類の色も問わない。
- (2) Tシャツでの試合（試合前のアップの時間も含む）は認めない。相手校の指摘により正しい服装に着替えなければならない。指摘に応じなかった場合その選手を失格とする。但し、事前の話し合いで両校の同意があれば、この限りではない。
- (3) 応援者はテニスウェアを原則とし、Tシャツ・防寒具も認める。尚、防寒具のカラーについては問わない。
- (4) 試合中（試合前のアップの時間も含む）のウォームアップ類の着用は認める。
- (5) 審判・ベンチコーチの服装は、原則として選手と同様であるが、防寒具はカラーを問わず着用してよい。

1 1. 審判

(1) 審判を出す順序

男子：	コート使用校	複	第1位
		単	第3位、第1位
相手校	複	第2位	
	単	第2位	
女子：	コート使用校	複	第1位
		単	第3位、第1位
相手校	複	第2位	
	単	第2位	

注) 両校ともコートを持ち合わせていない場合、コート使用校ではなくコート選択権所有校とする。

(2) 副審を出す順序

主審を出す順序の逆とする。

(3) 線審

両校の話し合いの上、出すことができる。

(4) 審判は、理工系登録者が行うものとする。但し、相手校または委員会が認めればその限りではない。

(5) コール範囲

- ① フットフォルト・ノットアップ・オーバーネットは主審、サービスのレット・タッチネットは、主審または副審のコールで有効となる。線審をつける場合、ベースラインのフットフォルトは線審、センターは主審が見る。
- ② オーバーコール・オーバールールは認めない。
- ③ フットフォルトは無警告で取らなければならない。
- ④ 主審はベースライン、主審側のサイドライン、センターラインをジャッジし、副審はサービスライン、副審側サイドラインをジャッジする。線審をつける場合、ベースラインは線審が見る。
- ⑤ ブラインドのジェスチャーがなされた場合は、主審ならば副審、副審ならば主審にその判定を委ねることとする。但し、このジェスチャーがなされずに後になってミスジャッジの言い逃れとしてのブラインド等は、理由にならないものとする。

(6) 主審は5.(7)で示した全ての権利がある。

(7) 主審はコートレフリーを呼ぶ権利がある。

(8) 審判の退場

ミスジャッジによりコートレフリーからクレームがついた場合、1回目を「警告」、2回目を「退場」とする。

注) ミスジャッジが故意であったかどうかはこの場合関係ない。

尚、退場となった審判は応援をすることができないこととする。

- (9) 審判が退場になった場合、次の代わりの審判が入る際は、相手校から審判を出すこととする。

1 2. 棄権・リタイヤ

- (1) 負傷(捻挫、外傷等)・筋肉ケイレン・その他偶発的な事故の場合、3分間の治療時間(メディカルタイムアウト)を1箇所に戻り、筋肉ケイレンの処置は一回に限り認める。再開できない場合は棄権とみなす。治療はコート上で行うものとし、コート内には本年度理工系登録者のみとし医師は入れない。これに違反した場合、その選手を失格とする。
- (2) 治療中のアドバイスは禁止とし、コートレフリーは必ず治療に立ち会い、治療時間3分間を計る。3分経過後の時間はポイント間とみなし主審が計るものとする。自然的体力消耗(ケイレン、肉離れ等)の治療は、自分によるストレッチのみ認め、他人による治療は一切認めない。これに違反した場合、その選手を失格とする。また、試合の中断も一切認めない。

1 3. ベンチコーチ

- (1) ベンチコーチは本年度理工系登録者が行う。
- (2) ベンチコーチは各コート1名とする。交代する時は、1人がコートから退出してから、次の人が入ること。
- (3) ベンチコーチは、むやみにその場を離れたり、コート内に立ち入りたり応援してはいけない(応援は拍手のみで、声を出してはいけない)。これらに違反した場合、コートレフリーがベンチコーチに「警告」し、2回目にはその試合のベンチコーチをなしにする。
- (4) ベンチコーチ以外の方は、選手にコーチングやアドバイスをしてはいけない。また、ベンチコーチもコートチェンジの際以外にはコーチングやアドバイスをしてはいけない。これらに違反した場合、コートレフリーが当該選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。

1 4. ボールパーソン

- (1) ボールパーソンは連盟登録者が行う。
- (2) ボールパーソンをどのようにつけるかは両校の主将・主務の話し合いで決定する。
- (3) ボールパーソンは中立であり、応援することはできない。これに違反した場合、コーチングとして当該選手に対してコードバイオレーションが適用される。
- (4) ボールパーソンのボールのひどい取り合いは禁止とし、あまりにひどい場合、コートレフリーは「警告」し、2回目にはそのボールパーソンを退場とする。
- (5) ボールパーソンの服装は、選手と同様とする。但し、ウォームアップの着用は認める。

15. 応援

- (1) 応援は試合の進行を遅らせないように注意して行う。
- (2) 相手選手に対するものは全て禁止する。すなわち、応援とは試合を盛り上げ、自校の選手を勝利に導くためのものであって、相手校の選手を野次るためのものではない。よって、声を上げ、罵声を発し、ジェスチャー・器具等を用いて相手校・相手選手・審判等の心理を錯乱させるような行動及びプレーの妨げとなる行為をしてはならない。
- (3) 連呼及び声出し応援は原則として禁止する。両校の同意がある場合のみマスクを着用し、適切な距離を保ち、(軽くナイスショットやファイトなどの) 常識のある応援は認める。
- (4) 男子部の者が女子部、女子部の者が男子部の応援をする場合は、拍手のみとする。但し、女子部がなく男子部の中に女子部員が存在する場合、その女子部員は男子部員と考える。
- (5) 野次などの不正な応援に対する処分
 - 1回目：学校全体に対する処分
 - 2回目：不正な応援をした者が退場。誰が野次を飛ばしたのか不明の場合、その面の選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (6) コーチングやアドバイスの応援に対する処分
当該選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (7) 以上(4)(5)の処分はコートレフリーが客観的に判断して行う。尚、その行為が故意でないにしても同様である。
- (8) コートの広さや環境に応じて、1面あたりの応援の人数を制限する。人数制限は各大学のコートなどで異なるので、試合前の主将主務会議で話し合い決定する。

16. 質疑・抗議

- (1) 試合についての質疑は、本細則並びに JTA ルール「コートの友」に基づきコートレフリーが処理するものとする。
- (2) 選手
選手は、質疑に関していかなる権利も有さないものとする。但し、質疑を行う際、コートレフリーに状況・内容を説明することは認め、それ以後の質疑には加わらないものとする。
- (3) ベンチコーチ
ベンチコーチは、選手の要請でコートレフリーを呼ぶことができる。また、相手校の応援その他で質疑・抗議がある場合もベンチコーチがコートレフリーに申し出ることができる。その場合、必ず、主審にその旨を伝えなければならない。但し、選手と

同様、質疑に関してはいかなる権利も有さないものとする。

(4)主審

主審は、ベンチコーチがコートレフリーを要請した場合、試合進行上支障がなければコートチェンジの際に、コートレフリーの質疑の対応ができるようにしなければならない。但し、ポイントの判定にかかわる場合は直ちにコートレフリーを呼ばなければならない。

(5)質疑権所有者

質疑権所有者は、各校主将・主務両方にある。また、主将・主務が同時に試合に入る可能性がある場合、1名代理人(本年度理工系登録者に限る)を出すことができる。その場合、代理人をたてる旨をコートレフリーに伝えなければならない。

質疑権所有者は、オーダーに対する質疑、試合進行に関する問題の質疑、または相手校の応援等に対する質疑をコートレフリーとともに行うことができる。但し、プレーや審判の判定に対する質疑には加わず、コートレフリーに任せるものとする。

17. ペナルティーの基準

(1)タイム・バイオレーション (Time Violation)

(非累加ポイントペナルティーシステム)

(a)違反事項

- ① ウォームアップの時間経過後、“20 seconds to play” の指示から、20秒以内に試合を始めない。
- ② 25秒、90秒、120秒ルールの違反

(b)ペナルティー

前項の違反に対するペナルティーは、次の通りとする。

- | | |
|-----------|------------|
| 1回目 | 警告 |
| 2回目及びそれ以降 | 違反ごとに1ポイント |

(2)コードバイオレーション (Code Violation)

(ポイントペナルティーシステム)

(a)違反事項

- ①理由のないゲームの遅延
 - 1) “Let’s play” の指示から、20秒以内に試合を再開しない。
 - 2) 負傷による中断後、“20 seconds to play” の指示から、20秒以内に試合を再開しない。
 - 3) 自然体力消耗(けいれん等)に陥って、試合の続行ができない。
- ②みだらな言葉
- ③ コーチング
- ④ みだらな態度

- ⑤ ボールの乱用
- ⑥ ラケット又は用具の乱用
- ⑦ 言葉での侮辱
- ⑧ 態度での侮辱
- ⑨ その他スポーツマンシップに反する行為
(相手コートのボールマークを調べようとして、ネットの線を越えて相手方コートへ行く等の行為を含む。)
- ⑩ プレーを妨害するような応援

(b)ペナルティー

前項各号の違反に対するペナルティーは、次のデフォルト・スケジュールによる。

- 1回目 警告
- 2回目 1ポイント
- 3回目 1ゲームを失う

18. 語句

(1)退場

退場となった者は、それ以降の当該1対抗戦の試合に関する全ての権利を失う。

- (2)両校の同意とは、必ず試合が始まる前までに行うものとし、いったん同意された事項はそれを取り消すことに関して、さらに両校の同意を必要とする。また、同意を行う際は、その事項がどの試合に対していつまで有効なのかをはっきりとさせ、コートレフリーが必ず立会いそのことを記録しておくこと。